

● 23年度区民意識調査結果 ●

震災への備え

食料・水等の備蓄を

している方は6割



区の重要課題への区民の皆さんの意識・要望を把握し、今後の区政に反映させるため、毎年「区民意識調査」を実施しています。

23年度の調査は、無作為抽出した18歳以上の区民の方2,500名を対象に、昨年9月下旬、郵送で実施し、1,292名から回答をいただきました。ご協力いただき、ありがとうございました。

23年度は、毎年調査している「居住意向」「区政への関心」「生活における心配事」などのほか、「震災対策」「区勤労者・仕事支援センター」「認知症になっても安

心して暮らせるまち」について伺いました。今回は「震災に対する備え」「地震発生時に必要だった情報」をはじめ、震災関連の調査結果を中心に紹介します。

すべての調査結果は、今後の区政運営の貴重な資料として活用していきます。調査報告書は広聴担当課・区政情報センター（本庁舎1階）・区立図書館で閲覧できるほか、新宿区ホームページでご覧いただけます。また、要約版を広聴担当課・区政情報センター・特別出張所で配布しています。

【問合せ】広聴担当課広聴係（本庁舎3階）☎(5273)4065・☎(5272)5500へ。

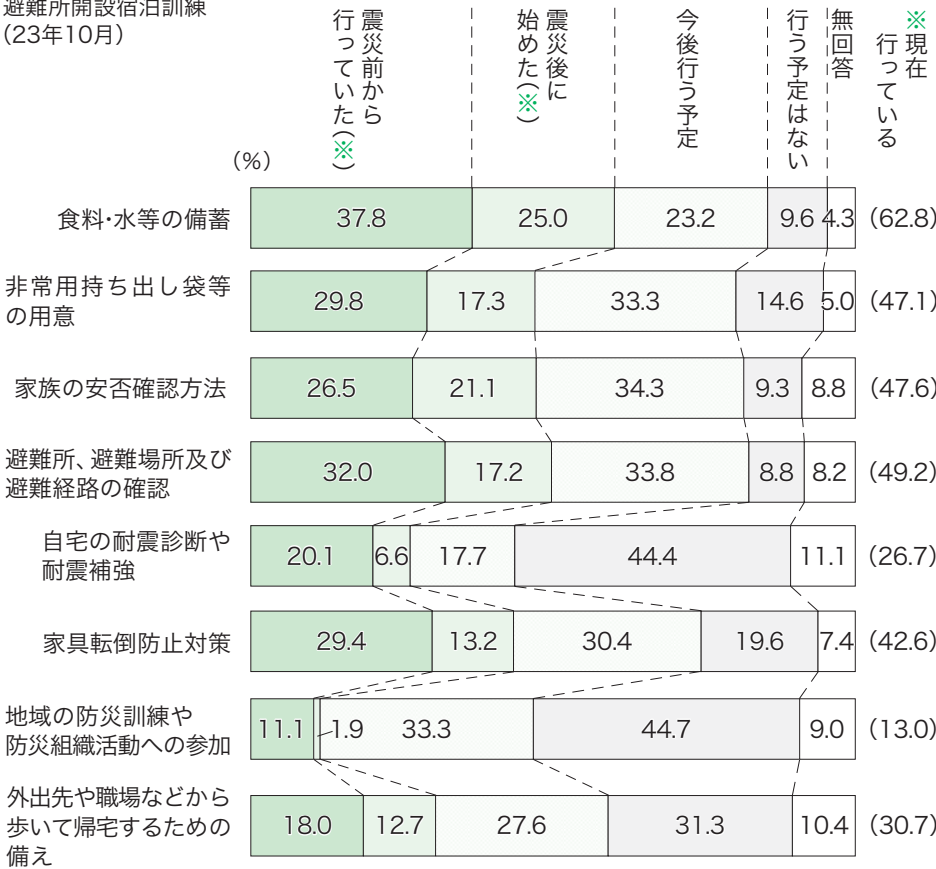
震災に対する備え

ご自身や家庭での震災への備えについて尋ねたところ、「食料・水等の備蓄」を、「東日本大震災前から行っていた」方は37.8%、「震災後に始めた」方は25.0%と、6割の方が備蓄をしています。また、「地域の防災訓練や防災組織活動への参加」「自宅の耐震診断や耐震補強」については、「行う予定はない」方が4割を超えています。



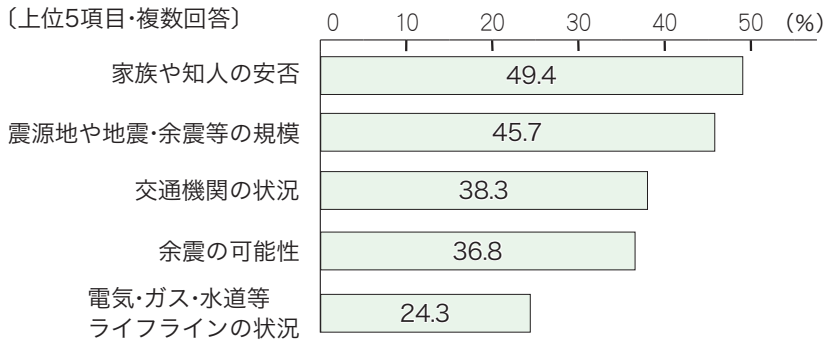
落合第六小学校での避難所開設宿泊訓練（23年10月）

震災後の意識として最も高かったのは、「家族の安否確認方法を決めている」方で、「震災後に始めた」と「今後行う予定」を合わせると5割半ばを超えています。



地震発生時に必要だった情報

東日本大震災が発生した3月11日の意識や行動を把握するため、地震発生時に必要とした情報を尋ねたところ、「家族や知人の安否」が5割弱で最も多く、次いで「震源地や地震・余震等の規模」が4割半ば、「交通機関の状況」が4割近くとなっています。

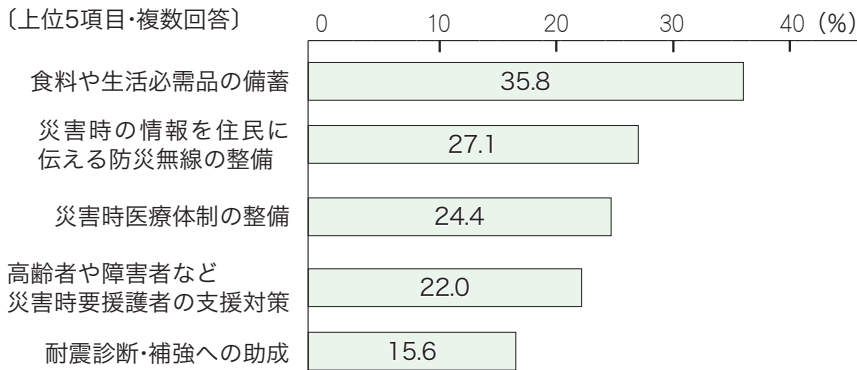


区の震災対策全般について

区の震災対策の中で、今後充実して欲しいことを尋ねたところ、「食料や生活必需品の備蓄」が最も多く、次いで「災害時の情報を住民に伝える防災無線の整備」「災害時医療体制の整備」となっています。



要介護者等の福祉施設への受け入れ訓練（23年11月）

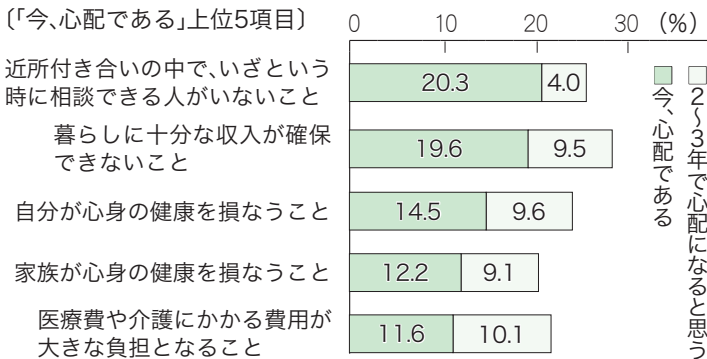


生活における心配事

日ごろの生活の中で、どのような心配事があるかを尋ねたところ、「今、心配である」ことは、「近所付き合いの中で、いざという時に相談できる人がいないこと」が22年度に続き第1位でした。



高齢者の方や家族を総合的に支援する高齢者総合相談センター



区の施策への要望

施策への要望は、「高齢者福祉の充実」「防犯・地域安全対策」は17年度から第1位・第2位となっていますが、「高齢者福祉の充実」は22年度より5.2ポイント減少しています。「震災・水害対策」は22年度の2倍以上に増加し、第5位から第3位に順位を上げています。

（上位5項目・複数回答）		
1位 (1)	高齢者福祉の充実	40.8%(46.0)
2位 (2)	防犯・地域安全対策	29.6%(28.1)
3位 (5)	震災・水害対策	27.6%(13.1)
4位 (3)	子育て支援（少子化対策）	15.2%(17.0)
5位 (4)	低所得者への支援	12.6%(15.1)

()は22年度の順位・割合